

赤石発！震災応援会 これまでのとり組み

今年度の総括：報告

平成25年3月13日（水） 赤石発！震災応援会 総括と平成25年度計画協議

22日（金） 赤石発！震災応援会全体会議 赤石公民館ホール

今までの報告と今年の取り組みについて 40名

取り組み方針 ・夏、秋に季節の野菜など届けること

- ・お茶会や懇親会など通して親睦を深める会の開催
- ・まつり等イベントの場で海産物販売
- ・昨年に引き続き「新米1升運動」の展開
- ・その他

8月24日（土） 赤石夏まつりで海産物の販売促進（注文）

9月 5日（木） 赤石発！震災応援会

ブドウ狩り一行来町の「おもてなし」について協議

29日（日） 大槌町赤浜よりブドウ狩り一行が来町 15名

- ・ブドウ狩り 長岡横沢 幕田農園
- ・赤石地区の子育て支援活動の研修
- ・昼食と懇親会

10月20日（日） 山田町豊間根地区 産業まつりで餅つき（ふるまい）

旧赤石産直組合一行 ■■■■■さん他 13名

- ・餅つきをしご馳走

23日（水） 赤石公民館だよりで「震災応援会だよりNO8」発行

31日（木） 山田町豊間根餅つき支援 反省会

11月 6日（水）「新米1升運動・秋野菜提供」のお願いを行政区長宛に
文書で依頼

14日（木） 赤石発！震災応援会

大槌との交流会について打ち合わせ

16日（土） 大槌との交流会準備作業

17日（日） 大槌赤浜との「ちょっとだけ後押しの会」 一行17名

（皆さんからこんなに頂戴しました）

新米（うるち米 106袋、もち米 21袋）	大根72本		
リンゴ2箱	さらし柿1箱	渋柿 紙袋2	白菜40個
ネギ3本組 125束	里芋75個	ぎんなん 小袋30袋	
カボチャ40個	カボチャ（南部一郎）36個	人参36本	
ジャガイモ 約350個	キャベツ55個	黒豆 小10袋	
干し大根 約20本	キリセンショ 140個		
手作り味噌（赤石子ども教室）	30袋		

20日(水) 山田町船越地区との交流 一行11名

・交流内容:(郷と海の交流)

24日(日) 紫波町 被災者を励ます会 ラ・フランス温泉館

12月10日(水) 赤石公民館だよりで「震災応援会だよりNO9」発行

平成26年2月 1日(土)

～ 2日(日) 赤石公民館まつりで写真パネルで来場者に周知活動

3月19日(木) 赤石発!震災応援会 総括と平成26年度計画協議

29日(土) 赤石地区の協議

「平成25年度の総括と平成26年度計画について協議」

朝日新聞 2013年11月20日

水害越え交流3年目

紫波町赤石地区



大槌町赤浜の仮設住宅

赤石住民が紹介する料理の説明を聞く
赤浜住民＝大槌町赤浜の仮設集会場

紫波町赤石地区と、大槌町赤浜の仮設住宅の住民が続けてきた交流が3年目を迎え、17日、赤石の住民が名産のもち米や野菜を持ってやってきた。水害を経ても支援を続ける赤石住民の姿勢に、赤浜住民から「自立しなくては」という気持ちが生えてくる。

増える笑顔 自立の心芽生える

震災後、赤石地区では、当時公民館長だった佐藤雄一さん(73)が有志と「赤浜発!震災応援会」を結成した。旧赤浜小学校の元校長、照井モトさん(76)が、赤石の佐藤周子さん(74)と知り合いだったことから、支援の場所を赤浜に定め、地区の2400世帯に呼びかけて食料を支援したり、紫波町へブドウ狩りに招いたりしてきた。

この日も18人が赤石からやって来た。赤石住民からは「次は私たちが支援する番なのに力がなくてできないばかりか、また支援に来てくれた。せめて自立する姿を見せなくては」と、仮設住民ら20人ほどを集め、「3分別の勉強会を開いた。赤石の雄一さんたちにも参加してもらった。

佐々木さんは「仮設住宅を出る頃には、何かこちらができることを考えてあげたい」と話していた。

(東野真和)